

第 5 回奈良市子ども・子育て会議事業計画策定部会の概要	
開催日時	平成 26 年 6 月 26 日 (木) 午前 10 時～正午
開催場所	奈良市役所 北棟 2 階 第 16 会議室
議 題	1. 量の見込みの算出について 2. 子ども・子育て支援事業計画素案の検討について 3. その他
出席者	出席委員 12 人 (欠席委員 2 人)・事務局 10 人
開催形態	公開 (傍聴者：なし)
担当課	子ども未来部子ども政策課
議事の内容	
1. 量の見込みの算出について 事務局より、量の見込みの算出について、資料 1 及び 2 を基に説明を行った。	
〔質疑・意見の要旨〕	
浜田委員	10 ページの補正の考え方についてですが、一気に多くの施設を平成 27 年度に作る必要があるため、この様な形で平成 31 年度に合わせて少しずつ上げていくということでしたが、全国的にこの様な傾向が出ているのでしょうか。もう一点、平成 31 年度に地域子育て支援拠点として 20 万人の量の見込みを担っていくには、平成 31 年度にはどれくらいの施設数になっていくと予想されるのでしょうか。数字だけではイメージが付きにくい部分であり、ブロックごとに考えた場合にどのような配置になるのか事務局としては考えていますか。
事務局	1 点目につきましては、前回の部会でも右側のグラフの様な考え方で修正している自治体もあるのかというご質問をいただきました。国の手引き通りで出している自治体と、それでは実態に合わないだろうと本市の様な形を出している自治体があるのが現状です。次に 2 点目につきましては、校区別やエリア別にこういった形式のものを何か所という具体的なイメージは現時点ではございません。ただ、奈良市では国が規定している拠点事業を補う形で、子育てスポット等をきめ細かく実施しています。さらに、同じ定義ではありませんが奈良市でも認定こども園の設置を進めています。その中には親子登園ということで、3 歳までの子どもと保護者を対象に随時、認定こども園に来ていただいている現状があります。そういったものも一定のニーズがあり、量の見込みに対応する確保策は国が規定している拠点事業だけに限らず、あらゆるもので補っていければよいと考えております。
浜田委員	単純に量の見込みに合わせてハード面を整備するということにはならな

いということでしょうか。また民間と連携することもあるということでしょうか。

事務局 前回の部会でもありましたが、拠点事業でもエリアによってニーズのばらつきがあり、ニーズが高いところには、既にある場所にも複数設置する可能性もあるとのことでした。奈良市の場合、拠点事業を運営する時は委託という形でやっているのですが、その取り組みは市全体でも民間へ委託できるものは民間へという大きな方向性があるので、そこは変わらないと考えています。

部会長 実際の5年間で子どもが減ることは明確になっています。5年後に確実に増えるのであればよいのですが、奈良市に住む人が減り他市に転居されてしまえば、ここで枠組みを作ったことが全て赤字になってしまいます。この会議の位置付けも、いかに奈良市を子育てしたいまちにするか、そのためにこれだけメニューがありますと提案するのであれば、それをきちんとアプローチして奈良市は子育てにやさしいまちであることを見える形にする必要があると思います。その辺りは費用対効果も含めて議論して事務局も考えていただき、まちづくりにも関係してくるので市長の考えもあると思います。ニーズも全てのエリアではなく偏りが出る可能性があり、病児・病後児保育も含めて全て画一的にすればよいわけではないかもしれません。様々な事を計画的に考えていく必要があると思います。この数値はとても貴重な数字なのでどう生かすかは、かなり慎重に考えていただいた方がよいと思います。

事務局 奈良市でも人口の減少や特に出生率について、対策に取り組む必要があります。先般、本市におきましても対策会議を設置させていただいたので、そこでも色々と議論はしていきます。会長の話にもありましたが、量の見込みも十分に反映させて考えて行かなければいけないと思いますが、基本的には奈良市は子育てにやさしいまち、条例ともリンクをさせて子どもにやさしいまちづくりを目指した形で進めさせて頂きたいと思いますので、それも含めてご議論をいただければと思います。

2. 子ども・子育て支援事業計画素案の検討について

事務局より、子ども・子育て支援事業計画の素案の検討について、資料3及び参考1から3を基に説明を行った。

〔質疑・意見の要旨〕

栗本委員 聞いているだけでも、ワクワクするような条例だと思いました。本当に施策の中できちんと具体的に実行できたら、素晴らしい奈良市になると感

じましたが、資料3については違和感を覚えました。その理由として、数字が現実的に感じられない中で何とか数字を出す必要があり、その出した数字の中で様々な事を決めて行く必要があります。それに対してこの会議は凄く重要な役割を持っていて、その一員であるという事にとっても大きな責任を感じています。先ほどの前半部分はよくわからなかったので、どの様に自分が関わっていけばよいのかわかりませんでした。ただ、今お話があったまちづくりの条例の骨子案に関しては非常にわかりやすく、具体的な施策がきちんと見えてくると、奈良市も子育てしやすいまちづくりという形でアピールできるのではないかと思います。

事務局 位置付けとしては、先ほどの資料1のニーズ量が出てくるので、それに対応するために事業計画を作るという順番ではなくて、子どもにやさしいまちづくりという大きな条例が最高位置で、その下に事業計画が具体的プランとしてあり、その中の1つの大きな項目の中に量の見込みが入ってくる流れになります。この関係性を図等で見やすくしていなかったのがわかりにくかったと思います。今後、説明なども工夫したいと思います。

北岡委員 いつも私の周りの保護者の方に、会議ではどういった内容の話をするのかと聞かれます。私には難しい事ばかりでどう説明したらよいのか迷っていたのですが、子どもにやさしいまちづくり条例の骨子案を聞いてすっきりし、素敵な条例ができ上がる事に関わっているのを感じました。皆さん奈良市での子育てはしやすいとおっしゃっていて、幼稚園や小学校に入った時に市からの書類や案内をたくさんいただくので、宿題などがしやすいように、子育てしやすいように考えられていて助かっているという事を聞きます。千葉県から奈良市に引っ越して来た方の話では、転勤先が奈良市と聞いた当初はショックだったようで、イメージとしてお年寄りが住むまちに感じられて、子育てするには住みにくいと思っていたそうです。しかし、実際に住んでみると、子どもが熱を出した時にはどうしたらよいかなどの案内の書類がきちんと配布されているので、奈良市で子育てをすることに對して守られている感じがして、今はここに来て良かったと言っていました。ただ、千葉県の友達に奈良市での子育てはどうかと聞かれると、どこがよいかアピールするところがないと言っていました。子どもに対してやさしいまちづくりということに関しては、これからまだまだ決めなくてはいけないことが多くあると思いますが、私の周りの保護者の方は満足して子育てをされています。これ以上のことを私たちが決めて行きたいと思います。

部会長 とても貴重な意見を聞かせていただきました。子ども参加型で子ども会

議を行うことや、子どもの権利を大事にするということが事業計画に入っているのは、とても斬新なことだと思います。そのあたりについても、市民の方や奈良市以外に住んでいる方に、奈良市としてこんな取り組みをしていますということを、アプローチをできればよいと思います。みなさんにアプローチの仕方は考えていただきたいと思いますが、印刷物だけを配布しても最近の若い保護者の方はあまり見ないのが現実だと思います。フェイスブックやインターネットなどの方が見てもらえる可能性があります。しかし、奈良市のホームページを見てみようというところに到達するまでのツールが必要だと思いますし、努力が必要な課題と思います。ホームページを見ていただければ、たくさんのメニューがあるということを知ってもらえると思います。これについては、まだ継続的な事とし各部署でも見ていただきたいと思います。

3. その他

事務局より、次回会議の日程について説明を行った。

資 料	<p>【資料1】量の見込みの算出について</p> <p>【資料2】提供区域ごとの教育・保育の需給計画のイメージについて</p> <p>【資料3】「(仮称) 奈良市子ども・子育て支援事業計画」素案作成に向けた検討資料 (参考1) 奈良市子どもにやさしいまちづくり条例骨子 (案) (参考2) 奈良市子どもにやさしいまちづくり条例骨子 (案) 解説 (参考3) 奈良市子どもにやさしいまちづくり条例骨子 (案) 中間報告概要版</p>
--------	--